

東京大空襲の新しい被災地図と証言映像アーカイブを公開します

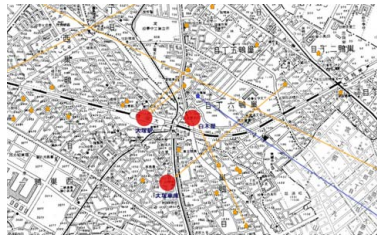
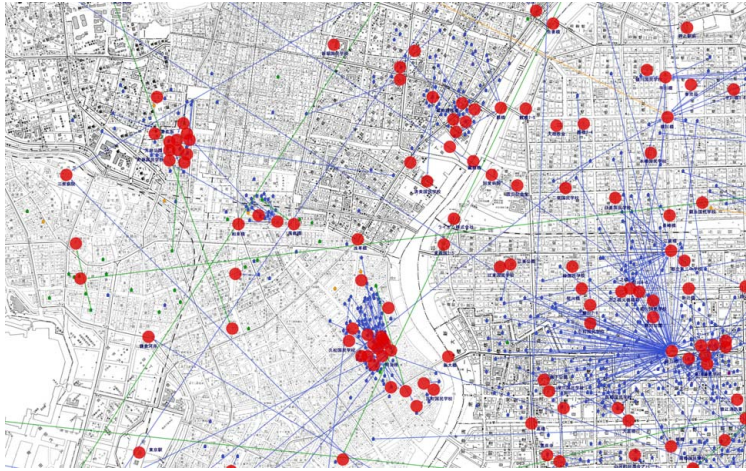
場所 東京大空襲・戦災資料センター

2014年3月1日から常設展示として公開

開館時間 12:00-16:00/ 休館日 月・火曜日 (3月9・10日は開館) / 協力費 一般 300円 中高生 200円 小学生以下無料

136-0073 東京都江東区北砂1-5-4/ 電話 03-5857-5631 FAX03-5683-3326/HP <http://www.tokyo-sensai.net/>

交通手段 都バス(秋26)「北砂1丁目」下車徒歩2分 都営・東京メトロ「住吉駅」B1出口徒歩18分



▲1945年3月10日下町大空襲の被災状況(部分)

◀1945年4月大塚近辺の被災状況(部分)。空襲時期別(月別)に色を変えて区部全体を地図化。

8層の東京の地図(1919-2000)に埋め込まれた人型のアイコン。アイコンをクリックすると映像が再生される。▼

東京大空襲 いのちの被災地図

どこに住んでいた人がどこで亡くなったのか—

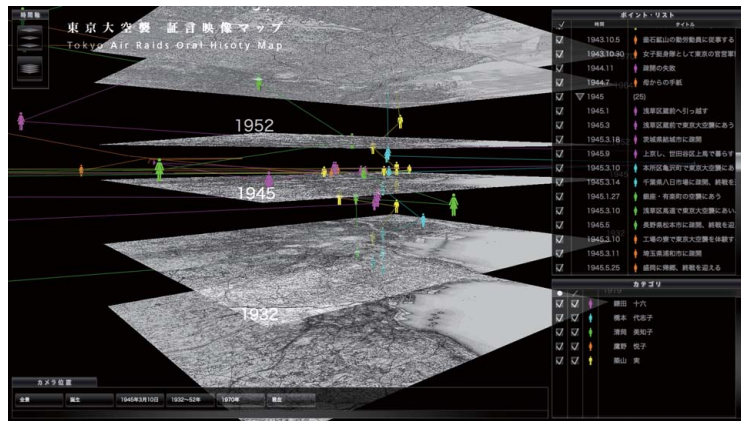
- ・約3万人の犠牲者名を収録した『都内戦災殉難者霊名簿』から住所と死亡場所の情報を地図に落とし線で結んだ被災地図。
- ・空襲当時、どこに住んでいた人がどこで亡くなったのか、犠牲者が特に集中した場所などを、縦横約2m半の巨大地図で一望できます。
- ・1945年3月10日の下町大空襲だけでなく、当時の都内35区(現在の23区)全体の状況をはじめて地図化しました。

制作 東京大空襲・戦災資料センター 墨田区立すみだ郷土文化資料館

東京大空襲 証言映像マップ

証言映像とデジタル地図で
歴史といまをつなぐ

- ・46インチ大画面で東京大空襲体験者の証言映像を自由に見ることができます。
- ・「空襲体験」だけではなく、戦前・戦中の生活体験、戦後体験の証言も収録して歴史といまをつなぎます。
- ・時空間情報を3D地図上に表示する時空間マップソフトウェア(c-loc)を活用。デジタル技術と人文科学を融合する人文情報学(Digital Humanities)の成果。



▲証言映像の再生画面

▲モニター画面を見ながら手前の台に置かれたパッドで操作

東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂1丁目5-4

Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

Web: <http://www.tokyo-sensai.net/>

展示公開記念イベント

3月1日(土) 14:00 場所 戦災資料センター

展示解説 (A 被災地図担当 B 時空間マップ担当)

青木哲夫(センター主任研究員) A

山本唯人(同上) AB

早乙女愛(映像プロデューサー) B

野口靖(アーティスト/東京工芸大学准教授) B